

住宅火災安全シンポジウム

開催日時 平成 **22** 年 **11** 月 **25** 日 (木) 13:30~17:00

開催場所 東京理科大学 森戸記念館 第1フォーラム (地下1階)

住所：東京都新宿区神楽坂 4-2-2 ☆左下の案内図を参照してください。

建物火災による死者数に占める住宅火災の割合は高く、近年は高齢者が死者数に占める割合が高まっています。こうした中、居住者の火災発見の遅れを防ぐことを目的として、住宅用火災警報器の設置義務化が、平成 18 年 6 月の新築住宅を皮切りに、既存住宅でも進められています。

今回のシンポジウムでは、住宅火災に関するこれまでの研究成果、最近の住警器が奏功した火災事例、そして「住宅防火研究会 (東京理科大学グローバル COE)」での議論や研究計画の紹介をパネリストに発表してもらい、住宅火災の死者減少に向けた対策や研究の着眼点などについて幅広く議論します。

■ 参加費：無料

■ 参加申込：
「氏名」「所属」「連絡先」を記載の上、電子メール又は FAX にてお申し込み下さい。

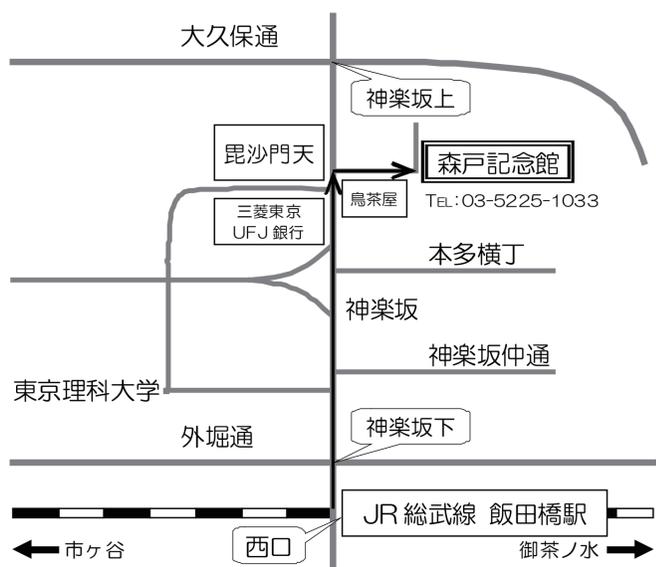
■ 申込締切：11月15日 (月)
注) 締切を過ぎてもできる限りご連絡下さい。
当日は、申込数より多めに資料を用意します。

■ 申込・問合せ先：
東京理科大学火災科学研究センター
TEL：04-7124-1501 ex.3523
FAX：04-7123-9873
Eメール：m.mizuno@rs.noda.tus.ac.jp (水野)
(<http://gcoe.moritalab.com/> をご覧下さい。)

■ パネリスト・発表内容：

1. 関澤 愛 (東京理科大学 国際火災科学研究科)
「高齢社会における住宅防火 -住宅防火研究の今日的課題-」
2. 佐藤 博臣 (ビューローベリタスジャパン株式会社)
「住宅火災におけるリスク評価
-火災リスクを考慮した性能設計の必要性-」
3. 中野 孝雄 (東京消防庁 防災部 生活安全課)
「東京消防庁における住宅用火災警報器の設置促進とその効果」
4. 住宅防火研究会メンバー
「住宅防火研究会の活動紹介」
菅原進一 (東京理科大学 国際火災科学研究科)
関澤 愛 (東京理科大学 国際火災科学研究科)
山内幸雄 (東京理科大学 総合研究機構)
原 哲夫 (日本 E R I 株式会社 評定部)
佐野友紀 (早稲田大学 人間科学部)
中濱慎司 (大成建設株式会社 技術センター)
水野雅之 (東京理科大学 国際火災科学研究科)

■ 森戸記念館 案内図



- 主題解説：菅原 進一 (東京理科大学 国際火災科学研究科)
- 司会役：水野 雅之 (東京理科大学 国際火災科学研究科)
- まとめ役：山田 常圭 (東京大学 消防防災科学技術寄附講座)

- 消防白書によれば、一昨年の平成 20 年中の火災による死者数は、建物火災で 1,499 人、このうち住宅火災は 1,325 人であり、放火自殺者等 202 人を除く失火等による死者は 1,123 人でした。
近年は火災の発生件数の減少に伴って死者数も少し減ってきていますが、その反面 65 歳以上の高齢者の割合は増加傾向にあります。高齢化社会が進む中にあるこれらの動向を注視しなければなりません。
- 居住者の火災発見の遅れを防ぐべく、平成 18 年 6 月より新築住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化され、既存住宅でも市町村条例で定める日 (平成 23 年 6 月を期限) までに設置が義務化されました。